

体験! 発見!!
ほっとけん!!!

やさしさ発見プログラム事業!



「うさぎ会」の和泉廣さん

今年度、学校、地域、企業、公的機関などで154回の福祉体験学習が行われ、延べ16,440人が参加されました。学校を中心に、以前から継続して取り組まれている、視覚障害者理解学習、聴覚障害者理解学習、車いすユーザー理解学習がプログラム全体の9割を占めています。最近、PTC活動として、このプログラム事業を利用される学校が増えてきています。

今回は、車いすユーザー理解学習で、学習協力者として活躍しておられる「うさぎ会」の活動を紹介します。

車いすを扱うときの注意

ブレーキをかけて乗降すること、「動きます。」「止まります。」「右に曲がります。」「段差があります。」などの声かけを丁寧にすること、何よりも車いすユーザーに安心感をもってもらうことが大切です。



車いす体験学習を通して学んでほしいこと

「うさぎ会」の主な活動は、車いすユーザーの外出支援ですが、近年は「やさしさ発見プログラム事業」の講師としていろいろな学校へ行き、車いす体験学習のお手伝いをする活動が増えてしています。この体験を通して、コミュニケーションの大切さを理解し、「やさしさ」とは何かを学んでほしいと思います。



車いす体験

事前の打合せを綿密に行い、車いす体験コースと体験方法に工夫を凝らしています。上り段差・下り段差・急坂の上りと下り・ドアレールの乗り越え・狭い通路などを体験コース上に設け、ユーザーと介助者両方の体験をしてもらいます。PTC活動では親子でペアになって体験するのが有効でした。学習協力者は、コース内の特に配慮の必要な箇所に立って、アドバイスをします。



平成26年度学生ボランティア活動サポート会議

7月24日、区社協と大学のボランティア担当職員が集まり、学生ボランティアの活動推進に関する会議を初めて開催しました。

当日は、市内8大学10名、8区社協15名のほか、オブザーバーとして県社協2名の出席があり、市社協職員を合せて全31名が集いました。

東日本大震災以降に増えてきた災害関連の活動、以前から行われている地域の清掃活動、ボランティアまつり等のイベントを手伝う活動など、学生のボランティア活動の場面は多様化しています。また、これまで活動して来られたボランティアが高齢化し、学生など若者のボランティア活動が求められる場面も増えてきています。

今回は初めての顔を合わせる人が多く、まずは出席者同士が互いに知り合うことに重点をおき、名刺交換の場を逐次設け、社協側から学生に参加してほしい講座やボランティアまつりの紹介を行いました。



<大学と社協の名刺交換中>



<各区のボランティア募集の説明>

このサポート会議の後、8.20土砂災害が発生し、多くの大学に運営スタッフとしての役割を担っていただきました。

お力をかしていただいた大学、学生のみなさま本当にありがとうございます!

今後も、学生がボランティア活動に関心を持ち、活動に参加しやすい環境や仕組みづくりについて考えていきたいと思っています。

～倉敷「ひまわり号」での案内・介助ボランティア～

ひまわり号は、列車旅行の機会が少ない障害者のために倉敷市の福祉・医療関係者や市民有志でつくる実行委員会が1985年から年1回新幹線を貸切って日帰り旅行する活動です。これまでに、姫路市、神戸市など13都市を訪問され10年の節目ごとに広島市に来られています。昨年5月25日に、岡山市、倉敷市の障害者103人を含む367人が、平和記念公園、縮景園などを巡られました。広島のボランティア26名は、おもてなしの心で、広島駅、平和記念公園、縮景園、県立美術館でバス、タクシーの乗降車の介助・案内を行いました。お見送りでは、「広島でまた、お会いしましょう!」と笑顔で手を振り、活動を終了しました。



個人登録ボランティアとして活動されている松永善治さんをご紹介します。

この度の「倉敷ひまわり号」の案内ボランティアでは、介助を必要とする方の気持ちに寄り添った心温かい活動をしてくださいました。松永さんがボランティアを始められたきっかけは、1994年に広島で行われたアジア大会で青年会議所のメンバーとしてのボランティア活動だそうです。毎年フラワーフェスティバルやマーガレットコンサートなどのボランティア活動に参加されています。特に平和記念式典での介助ボランティアでは、毎年、記憶に残る出会いがあると話されます。昨年は、三原市から来られた男性が、本川に向かって手を合わせながら、「今まで何十年も来たくなかった場所に初めて来た」と静かに祈っておられたそうです。その方のそばで涙したという心優しい松永さん。これからもよろしくお願いします。



ひろしま避難者の会「アスチカ」のコミュニティスペース「たねまく広場」

2014年6月1日、ひろしま避難者の会「アスチカ」の事務所兼交流スペースとして、「～話してみっけ 来てみっけ～コミュニティスペース たねまく広場」がオープンしました。

URL: <http://hiroshimahinanshanokai-asuchika.com>

東日本大震災から4年が経過しましたが、避難者のみなさんの抱える課題は多様で、当事者だけでは解決できないこともたくさんあります。

「たねまく広場」は、避難者・移住者の憩いの場としてはもちろんですが、支援者や地域の方々の交流の場となることを願ってオープンされました。ふらりと立ち寄りおしゃべりしたり、福島の新聞や震災関連の書籍などを見ることが出来ます。また、交流スペースとしても利用できますので、気軽に立ち寄りみてください。

住所: 広島市西区三篠町2-15-5 電話082-962-8124

☆ひろしま避難者の会「アスチカ」☆

東日本大震災の地震・津波や東京電力福島第一原発事故により広島に避難されている方の当事者の会で、「避難者に「明日へすすむ力」を」という思いにより2012年10月に設立されました。

(広島市ボランティア情報センター利用者連絡会登録団体)